

雨音を心に打てば鈴の音か

かぐらざか

二人傘さす 神楽坂路地

令和五年四月十五日

大中臣正比呂



鈴ちゃんと逢う時は雨が降る。黄砂を流す雨だから、私は着物を気損ねたのに、君はちゃんと着物で舞台を観てくれたのだね。
だから、帰りは英子姐さんの店に寄ろうよ。